

都内事業者、団体の皆さまへ

地球温暖化による影響に立ち向かうため、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

日頃より、都の環境施策にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

昨年、都内では初めて40度を超える最高気温を記録し、厳しい暑さが続きました。日本各地でも、経験したことのない豪雨やそれに伴う土砂災害の発生など、自然災害による影響が増大しています。

東京都では、地球温暖化による影響に立ち向かい、都民の生命と財産を守るため、**「1.5度を追求し、2050年までに、CO₂実質ゼロに貢献する、ゼロエミッション東京の実現を目指す**」というビジョンを掲げ、取組を強化してまいります。

【背景や考え方の詳細については、裏面をご覧ください。】

ーゼロエミッション東京の実現とはー

東京が、省エネルギーと再生可能エネルギー利用の拡大、省資源と再生可能資源の利用などにより、CO₂排出を最小化するとともに、既に避けられない地球温暖化の影響に対応する持続可能で強靱な都市となることをいいます。

事業者の皆様には、これまでも、東京の環境改善のため、様々な取組をお願いしておりますが、改めて取組を進めていただくことをお願い申し上げます。

参考に、主要なテーマについて、考え方や方向性、補助などの支援メニューを添付いたしました。

日頃の事業活動等で関係の深い施策テーマに加え、その他の施策についてもご一読いただき、事業所内での共有や取組のご検討に活用いただければ幸いです。

今後とも、皆様と共に、持続可能で魅力と活力あふれる都市・東京を築いてまいりたいと考えておりますので、重ねてご理解とご協力をお願いいたします。

東京都環境局長 吉村憲彦

地球温暖化の影響

- 地球の平均気温は既に約1度上昇しており、2030～52年の間に1.5度に達する可能性が高いとされています。
 - 昨年、都内では初めて40度を超える最高気温を記録し、厳しい暑さが続きました。また、本年5月には真夏日が続き、5月の最高気温の記録を更新しました。
 - 日本各地で、経験したことのない豪雨やそれに伴う土砂災害の発生など、自然災害による影響が増大しています。世界でも、北極海の海氷の減少、海面水位上昇などが進んでおり、食料生産への影響や感染症の拡大などの影響が出ています。
- ⇒地球温暖化の影響は既に我々の日々の生活に大きな影響を及ぼしており、企業活動においても、原材料の調達などサプライチェーンへの影響を含むリスクが高まっています。

世界の動き

- 昨年公表されたI P C C（国連気候変動に関する政府間パネル）特別報告書では、気温上昇を、2度上昇よりリスクの低い1.5度未満に抑えるためには、2050年頃にはCO₂排出を実質ゼロ（人為的排出量と吸収量が等しい状態）にする必要があることが示されています。
 - 気候変動への対処は、環境リスク低減だけでなく、社会・経済に便益と機会、成長をもたらすものであり、SDGsを実現する上でも重要な課題です。
- ⇒ESG投資など企業の気候変動対策への関心が高まっており、気候変動への対処は、競争力を向上し、イノベーションと成長の機会をもたらします。

ゼロエミッション東京に向けた都の取組強化の方向性

- 温暖化を食い止める緩和策と、すでに起こり始めている温暖化の影響に備える適応策を総合的に展開します。
 - これまでの省エネ、再生可能エネルギーの拡大施策に加え、食品ロスやプラスチック対策など、サプライチェーンを含めた都市活動に起因するあらゆる分野での取組を進めます。
 - 都自らも率先行動として、全庁一丸体制を再構築し、都施設の省エネ・再エネに加え、都庁プラスチック削減方針に基づく取組やEVなどゼロエミッションビークルの導入拡大などに取り組んでまいります。
- ⇒今年末までに、具体的な戦略「ゼロエミッション東京戦略」を策定します。